

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200172		
法人名	株式会社ケアフォレスト		
事業所名	グループホームひなたの広場		
所在地	栃木県足利市五十部町490-1		
自己評価作成日	平成27年1月24日	評価結果市町村受理日	平成27年4月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成27年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切に、利用者一人一人が楽しくその人らしい生活を送れるような介護を心がけるとい理念を掲げている。そのような理念を職員は理解し、実際に介護に生かすよう心掛けている。また、地域の一人として地域の行事に積極的に参加をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームでは、地域密着で家庭的な雰囲気のもと、利用者一人ひとりが自由にその人にあったペースで過ごしていけるように介護することを目指している。運営推進会議には自治会長、民生委員、地域の福祉委員などの地域の人たちの参加があり、子供神輿がホームに寄る様子をコースを変更してくれたり、小学校のボランティアの情報を寄せてくれたりと積極的に関わって頂いている。また、散歩の際には必ず声を掛けて頂いたり、避難訓練に参加して貰ったことがあるなど地域との関係は良好である。また、管理者が職員の言葉遣いが抑圧的にならないように日常の場面で適時に職員を指導している。職員も言葉遣いには十分注意している。さらに、職員からは下剤内服時間をずらすなどの工夫や病気欠勤の職員が出た場合に勤務時間を変更する案が出るなど前向きな業務改善の提案があるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気大切に利用者一人一人が楽しくその人らしい生活を送れるような介護を心がけるという理念を掲げ管理者、職員は丸となり、実践に取り組んでいる。理念は誰でもすぐに確認できるように事務所に掲示している。	月1回の職員会議で管理者が理念の話をし、趣旨の徹底を図っている。職員も理念を確認しあって日々のケアに活かしている。また、新入職員については分かりやすく念入りに指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の公民館の文化祭や町内の夏祭り、地域の町内清掃などには参加をしている。また、利用者が外出するときは、近所の人と挨拶や会話をする等交流をはかっている。	公民館文化祭に利用者の習字・絵・はり絵を出品している。地域の行事には積極的に参加しており、夏祭りでも子供神輿が廻ってくるようになった。また、日常的に散歩や回覧板を置いてくる際、近隣の方々と会話をするなど良好な関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人や家族から相談を受けた場合は助言をしている。また、民生委員の集まりの時にパンフレットを配ったり、挨拶に行き施設の取り組みを説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業報告、今後の予定などを話している。意見・情報交換の時間を設け、参加者から意見があれば施設運営に生かしている。	家族代表・自治会長・民生委員・地域の福祉委員や市職員が固定の構成員のほか、消防署や警察署の職員にも年1回程度は出席を依頼し、防犯等の話をしている。また、地域の方から「小学校のボランティア訪問について」家族からは「弁当を持っての行事」など前向きな提案が出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して情報交換をしている。また、必要な時に課題解決に向けた話し合いなどはしている。	運営推進会議において出席者の要望に応じて他の福祉施設の説明をしてもらうこともある。困難事例等があれば出向くほか電話で指導を仰ぐなど、良好な関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成している。それに則り、身体拘束はしていない。職員には会議の時に身体拘束をしないよう話をしている。	管理者が職員会議で身体拘束の事例を指導しマニュアルの徹底を図っている。研修に参加した職員からも全職員に対し報告を行っている。また、言葉による拘束について、管理者が会議や日々のケアの場面で指導をしており趣旨の徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴介助の時や着脱介助の時に身体の確認をしている。そのように利用者の身体状況を常に確認し、異常があればすぐに把握できるよう努めている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じNPO法人財産管理支援センターフォレストよりアドバイスを受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明を心がけ本人や家族に理解し、納得してもらうよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時や家族の面会時、また、月1回の支払いの時に家族と話し、意見や要望がないか確認している。直接意見が言えない場合に備え、意見箱も設置している。	家族とは月に2~3回は面談している。利用者の生活状況や健康状態に関する問い合わせが多い。また、認知度が進まないように畑仕事や簡単な計算問題をやらせて欲しいなどの具体的な要望がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の時に、利用者につて、業務内容についてなど一通り話し合い、運営に反映している。その他の時でも随時意見は受け付けており、速やかに問題解決ができるように努めている。	リハビリパンツが必要になったことや入浴に介助がいるようになったなど利用者の変化に応じたケアの提案がある。職員が急病で出勤できない場合の勤務時間の変更の提案等の意見も出され運営に資している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務実績などを反映し、業務評価表を基に給与や賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員には初めのうち、他の職員と組み業務に当たり、業務に慣れるようにしている。また、職員会議を通して、ケアの方法などについて勉強をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内において研修会や交流会を行っている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問の時、本人の意思、思いを必ず聴くようにしている。安心して施設利用につながるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問の時、家族の困っている事、不安に思っている事などを聴き、適切に助言できるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族がどのようなニーズがあるか、どのような支援が必要かを総合的に勘案し、その人や家族に合ったサービスを支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存機能を生かし、できる事は自分でやらせようという事を心がけている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況に応じ、家族と随時話をしていく。施設の行事には参加を呼びかけ、家族とコミュニケーションがはかれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連絡を密にしている。お盆やお正月には自宅に戻ったり、受診の際は家族に連れて行ってもらうたりと家族が協力できることは協力してもらっている。	最近友人・知人の来所は少なくなったが、家族と市内へドライブに行ったり、法事へ出かけるなどしている。家族とはホールや自室で過ごすことが多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や相性、残存機能等把握し、お互い支え合う事ができるよう支援している。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時も必要に応じ情報提供や相談、支援などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを重視し、思いや希望を把握することに努めている。困難な時は、職員で話をしたり、家族に話を聞いたりとして情報を共有している。	利用者からはカラオケ、畑仕事、習字を習いたいなどの希望があり対応している。また、あまり意向を表出しない利用者からは日々の着替えの際や会話のなかで思いを聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の時に生活歴を本人や家族から聴き把握している。利用後は日々のかかわりの中で情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議の際、利用者について話し合いをしている。現状でのニーズはどこにあるのか残存機能はどうか等を把握し、共有している。それに基づき、本人本位の生活が送れるよう支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や意向を反映し、ケアプランを作成することを心がけている。また、職員会議で上がった職員の意見も取り入れている。	利用者一人ひとりの担当職員を決めており、その職員から主に利用者の変化等について意見を聞いている。さらに、月1回の全体会議で他の職員の意見や必要があれば医師の意見も聞いて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録表、日常生活チェック表、業務日誌等に日々の様子を記録している。職員は自由に閲覧でき情報の共有をはかっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のその時々状況に応じニーズを把握し、臨機応変に対応している。本人本位で検討し、柔軟に対応するよう心掛けている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公民館で毎年開催される文化祭に作品を出品したり、地域の夏祭りに参加したり等地域の一員として生活できるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの主治医との関係性を大切にしている。体調不良時は主治医へ受診してもらっている。施設でも受診に連れて行くなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	入居以前からのかかりつけ医を継続される方が多い。定期検診は家族にお願いしているが、熱が出たなどの生活状態をメモにして渡している。薬等の受診結果は必ず報告して貰い情報を共有している。また、協力医の月1回の往診もあり半数程度の利用者が受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設では看護師を配置していない。利用者の健康管理に関してはかかりつけ医と緊密に連携して行く事に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な時は、かかりつけ医と相談し、決定している。その際、情報提供は医療機関に行っている。退院の時は、ソーシャルワーカー等と連携し、スムーズに退院できるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前の契約時に十分に説明をしている。そのうえで理解し、納得してもらうよう心掛けている。現状ではターミナルケアは行っていない。	現体制では終末期等の対応は不可能なこともあり、入居時に家族にはよく説明し納得して頂いている。今後は、医師の協力が得られるかや職員がどの程度対応できるかなどを検討していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については職員会議などで確認をしている。また、事務所に緊急時の対応手順を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いのもと年2回避難訓練実施している。そのうち1回は夜間想定で行っている。	年2回の避難訓練に消防署に来てもらい指導を仰いでいる。近所の方に夜間想定訓練に参加してもらったこともある。連絡網には近隣の方は入っていない。備蓄は米、乾パンなどを用意している。スプリンクラー等の消防機器は万全である。	災害時には近隣の方の協力が不可欠なので、連絡網に入ってもらったり、近隣の方との役割分担をお願いするなどの検討を期待したい。また、職員間で非常時のシミュレーション訓練を自主的に行っており今後も継続することを期待したい。

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に接する際は、言葉遣い、態度、表情など穏やかに、馴れ合いにならないように注意して接している。また、排泄介助の際は、プライバシーに配慮して声掛けしている。	年長者として敬い「さん」付けでお呼びしている。管理者は、赤ちゃん言葉や馴れ馴れしい言葉掛けはしないように十分注意している。特に、否定的な言葉遣いはせず、利用者のプライドには特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服を選ぶ際、自分で着たい服を選んでもらう、食事や出前を取る時、好きなものを選んでもらう等、日常生活で自己決定できるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の都合ではなく、利用者一人一人に合わせた介護を心掛けている。起床、就寝時間など利用者のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に服を選んでもらう、月1回の訪問散髪の時カットやカラーをしてもらう等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳などおいしく食事が提供できるように工夫をしている。献立も利用者希望の物を入れるようにしている。	職員が利用者の希望を聞いて献立表を作成している。利用者は洗い物やテーブル拭き、食後の清掃を手伝っている。月1回は出前の日を設け、好みのお寿司や弁当を取っている。また、庭の畑で収穫されたナスやキュウリ・トマト等も利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表があり、記録している。それを基に利用者の状態を把握できるようにしている。塩分や水分制限のある利用者には摂取できる範囲内で提供したり、栄養不足の利用者には、栄養補助食品を提供したりなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。就寝前には義歯の洗浄、消毒をしている。また、必要に応じて、歯科往診も行っている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表があり、記録をしている。それを基に、利用者の排泄パターンを把握している。利用者個人個人に合った排泄介助を心掛けている。	排泄パターン表に基づき排泄の時間を把握しケアしている。職員の提案によって下剤を飲む時間を変更したことで、排泄の失敗がなくなるなど自立に向けた工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事を提供する、運動を心掛けるなど便秘にならないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する日は決まっている。しかし、利用者の状態に合わせ、臨機応変に対応はしている。入浴を楽しむために、入浴剤を入れたり、冬至の日にはゆずを入れたりなどしている。	原則的には、週2回午後に入浴している。利用者の希望や体調により夕方に入浴することもある。入浴の際に異性の介護を拒否する方はいない。昔話が出るなどコミュニケーションの絶好の機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者に合わせている。昼寝をしたい利用者は昼寝をしてもらうなど、利用者のペースに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者が服用している薬は把握している。また、薬の効能など理解をするよう努めている。服薬介助の時は誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を参考にし、その人に合った余暇活動を提供できるよう努めている。タバコを吸う利用者には、本人が希望する時間に合わせ吸ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回は外出の行事を企画している。家族にも参加を促し、参加してもらっている。	月1回は外出を企画し、市内外の道の駅、フラワープーク等に出かけている。利用者全員で法人グループのリフト車を利用して外出している。家族にも参加を呼び掛けている。キザミ食等の利用者もおり外食は難しくなってきたが、今後は弁当を持っていくことも考えている。	

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金があり、その中で本人の欲しい物や外食代金など出している。利用者と買い物に行くときは、預り金を渡し、利用者にお金を出してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望する場合対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけをしている。共用空間は清潔保持を心掛け、適温適湿を保つよう努めている。消臭剤、空気清浄器なども設置し、臭い対策もしている。	日差しが十分に差し込み、冬でも部屋半ばまで暖房が必要ないほど暖かい。利用者が書いた習字や行事の写真が適度に飾られ、各部屋のドアには名前とともに季節の花も表示されている。多くの利用者は、日中はホールのテーブル席でゆっくりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が好きな時に好きな場所で過ごせるように対応している。ひなたぼっこするために、窓際に移動したり、仲の良い利用者同士を隣にしたり等している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の家具、使い慣れた道具などを持ち込んでもらっている。自宅にいた時と同じような雰囲気づくりに努めている。	ベッド・タンス・エアコンは備付になっており、布団・収納箱等は持ち込みになっている。利用者は家族の写真、配偶者の位牌やテレビなど使い慣れた物を持ち込み過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前が書いてあり、わかりやすいようにしてある。トイレには表札が掲げている。施設内はバリアフリーである。		